



関高 SGH 情報 第44号

平成 30 年 1 月 9 日(火)
SGH プロジェクト委員会

今回は、2年生有志メンバーによるLGBT研究の活動報告です。

◇ LGBT当事者の方々（レイニー・オーレ）との交流会に参加しました。

日時：平成29年12月17日（日） 15:00～16:00

場所：関市わかさプラザ学習情報館

参加者：市内高校生3名、市外大学生2名、成人3名

関市内の市民活動団体のみなさん、「広報せき」の呼びかけ（写真右）に集まったみなさんによる第1回の会合（写真左・個人情報に配慮）。今回はトランスジェンダーについてのテーマトークで盛り上がりました。関高生の疑問に対し、みなさん、親切にいていねいに答えてくださいました。

https://mobile.twitter.com/rainy_ole



◇ 第9回さくら塾 早川工業株式会社社長 大野雅孝氏

日時：平成29年12月18日（月） 14:00～15:00

場所：関高校北舎別館

参加者：生徒7名、教員2名

テーマ：「多様な感性で会社を変える」

関市内の企業でいち早くLGBT問題に取り組んだオーナーのお話をうかがいました。ご自身の留学体験やご家族のこと。リーマンショック後の企業改革。様々な経験を踏まえたお話を、ざっくばらんにしてくださいました。今回の講演の内容は、社長さんのブログでも紹介されています。

<http://hykw.co.jp/2017/12/19/母校にて/>



生徒の感想

■第1回レニー・オーレ交流会では、「話してみないと分からないことはたくさんある。」と実感しました。本を読み、交流会に行き、一通り知識は得たと思っていたのですが、知識のその先のお話を聞くことができました。

特に「LGBT当事者からの告白に対し、どう答えるか」という討論では、当事者がカムアウトすることがいかに勇気のいることなのか分かりました。私はまだまだ考えが未熟だと分かったので、当事者でない私が、「ALLYです」と自信を持って答えるには、もっと当事者の気持ちに寄り添わなくてはならないと感じました。

■今日は早川工業さんのお話をきいてすごく勉強になりました。会社で、障がい者の方と一緒に働いていらっしゃることにすごく驚きました。大野さんのダイバシティーの活動が障がい者の方などが働きやすい環境にしているんだなと思いました。また、他の社員の方と同じように一緒に働いていらっしゃる事が、すごく素敵なことだなと思いました。今まで、LGBTに関わる活動といえば、当事者や支援者のサークルや団体が行っているというイメージがありましたが、企業として活動するというのは初めて知ったので、新しいなと思いました。私が今まで思っていた視点からは全く異なっていてなるほどと思いました。

でも大野さんは、活動というよりもLGBTの方や障がい者の方をありのままに自然に受け入れていらっしゃる感じがしました。大野さんは20代の頃いろんな方と交流してきた経験からちゃんと理解することが大切だとおっしゃっていました。私たちも理解があまりされないのが現状だと考えていたので、今回のさくら塾から学んだことをこれからのLGBTの研究に活かせたらいいなと思いました。

■大野さんのお話の内容に、とてもほっとしました。なぜなら、SGHの研究課題について私たちのグループが導き出した結論と、多々重なる場所があったからです。私たちのグループは、「普通とはなにか」という疑問を持ち、どうしたらLGBTを特別視しなくなるのか、という課題についての答えを探しています。様々な情報に触れ、「LGBTの差別問題と向き合うことは相当に覚悟のいることではないか」と感じることもありましたが、大野さんが驚くほど気軽な気持ちでその垣根を越える取り組みを始められたことを知り、「なぜ私たちはこんなにも深刻な気持ちでLGBT問題と向き合わなくてはいけないのか」という疑問を感じました。私たちのグループでは、彼らのことを普通ではないと騒ぎ立てるからこそ、そこに何か恐ろしさや受け入れ難さを感じてしまい、そういったLGBTに関しての知識の不足が、差別や偏見を生むのだと考えました。

大野さんは留学その他の経験により、一般的な人と比べ、人種を超え、LGBTの方々やハンディーキャップをもつ方と触れ合う機会をお持ちだったことを考えると、やはり、様々な人を知ることから始めなければ、人を理解することなどできないのだと感じました。

大野さんの方針は大胆で挑戦的だと思います。企業としての歴史を覆し、新しい挑戦を始めることで、人の可能性を明らかにし、周りの企業や環境に所謂マイノリティーへの平等な社会づくりを促進させる。大野さんの企業は今後そういった役割も担っていかれるのではないかと思います。ただ、こうした取り組みができたのは中小企業であるからだと考えると、大野さんのように広い視野を持つ考え方で会社の在り方を変えることができる企業はまだ少なく、特に大企業などでは、トイレや更衣室などの施設の面での問題が壁となるだろうと考えると、ハンディキャップをもつ人やLGBT当事者のことを、わざわざ特別扱いしなくてもよい世界が実現する日は遠い先のことのようにも思えます。そして、そういった問題をどのように解決していくのがよいか、答えを探していくのは私たちの役目だと感じました。